EFL 辞書とインターネット・リソース

上　村　俊　彦

EFL learners' dictionaries and Internet resources:
How to make the best use of them

Toshihiko Uemura

1．はじめに

近年，さまざまな英語のテキストや会話データからなるコンピュータ・コーパスを活用した英語辞書が多数出版されるようになってきた。[1] 1995年には，外国語としての英語（English as a Foreign Language，以下EFL）市場に，CIDE（初版），COBUILD（2版），LDOCE（3版），OALD（5版）があいついで現れた。[2] そして，2000年から2001年にかけて，CDAE（初版），CLD（初版），COBUILD（3版），LAAD（初版），OALD（6版），OWP（2版）といった英語辞書が登場している。（略称については，**Appendix I** を参照。）また，近年のコンピュータ・ネットワークの充実は，EFL 辞書や各種の辞書・事典あるいはその他のレファランスをインターネット上で活用できる環境を作り出した。

本稿では，大規模コンピュータ・コーパスにもとづく最新の EFL 辞書を外観するとともに，上述のような英語学習者に有益なインターネット・リソースを外国語として英語を学ぶ人々がどのように活用すべきか検討する。

2．最近の EFL 辞書

最近出版された主要な EFL 辞書を比較し，**表 1** とした。英語学習者を主なターゲットとするこれらの辞書には，(1)コーパスデータに現れた語彙の出現頻度に基づく見出し語（headword）の選定，(2)限られた数の「定義語彙」による各英語語彙の語義・語法の記述，(3)コーパスデータを用いた英語の主要なコロケーション・パターン記述やその用例の選択，などの共通点が見られる。

表１．主要 EFL 辞書の比較

	COBUILD3	CDAE	CLD	LAAD	OALD6	OWP2
刊行年	2000年	2000年	2001年	2000年	2000年	2000年
推定見出し語数[1]	34,109	18,049	19,271	43,732	33,949	17,010
定義語彙	2,500	2,000	2,000以下[2]	2000	3,000	2,500
利用コーパス	Bank of English	CIC[3]	CIC[3,4]	LCN[5]	BNC[6]	BNC

1．「推定見出し語数」は，まず１ページあたりの見出し語の平均値を出し，各辞書のＡ項からＺ項までの総ページ数を掛けたもの。
2．CLD（p.5）によると，CDAE（2,000語）よりも少ない。
3．Cambridge International Corpus。
4．CLD（p.5）によると，CIC とともに Cambridge Learners' Corpus を利用。
5．Longman Corpus Network。
6．British National Corpus（以下，BNC）とともに Students' Writing Corpus を利用。

見出し語総数で見ると，６つの EFL 辞書は２万語以下のグループ（以下，「２万語グループ」）と３万語以上のグループ（以下，「３万語グループ」）と４万語以上の LAAD とに分けることができる。ただし，**表１**の「推定見出し語数」と各辞書の「公称」の語数とは一致しない。辞書ごとに派生語や追い込み見出し等の数え方が異なっているため，本稿では「公称」の語数を使わずに，同一基準で実際に調査して出した「推定見出し語数」をもとに比較をおこなう。[3)]

２．１　語彙とその語義・用法

各辞書の見出し語の立て方や語義・用法の記述などの傾向をつかむために，若干のサンプルを取り，**表２**とした。

表２．辞書の比較

	COBUILD3	CDAE	CLD	LAAD	OALD6	OWP2
corpus	+			+	+	
corpora	+			+	+	
corpuses	+			+	+	
e-	+	+		+	+	
e(-)mail n U						
e(-)mail n UC	+	+	+	+	+	+
e(-)mail v vt	+	+	+	+	+	+
full board	+		+		+	+
shall	+	+US rare		+	+US rare	
squeaky-clean	+	+infrml				
(squeaky clean)	+		+	+infrml	+infrml	
point v	6	1	3	7	6	4
point n	21	8	18	32	18	10

＊ **infrml**＝informal

表２をもとに各辞書の項目の立て方や記述の詳細さを比べると，詳しい順に **COBUILD3, OALD6, LAAD＞CDAE＞CLD, OWP2** の順となる。

外来語起源の語彙とその複数形……2万語グループの辞書では，“corpus” を見出し語として採用していない。ただし，辞書の「カバー」，「序」や「利用案内」などには，各辞書がコーパスに基づいた（corpus-based）ものであることについての英文表記がある。なお，3万語グループと LAAD では “corpus” は独立見出し語であり，複数形として “corpora” と “corpuses” とが併記されている。

独立見出し語としての接辞 “e-”……すべての辞書は，“e-mail” または “email” を見出し語としている。しかし，接辞 “e-” については，2万語グループの CLD と OWP2 では独立見出し語として採用していない。

可算・不可算の表記……“mail” は不可算名詞（Uncountable Noun）であるためか，COBUILD2 や OALD5 など旧版の “e(-)mail” の表記は “U” のみだった。しかし，**表 2** の各 EFL 辞書の表記は “U” とともに可算名詞（Countable Noun）“C”の表記がある。“C” という表記が追加されたのは，日々，拡大するコンピュータコーパスの中に “an e(-)mail” や “e(-)mails” などが多く出てきたためと推測される。

「英」・「米」語法……「米語」系辞書 CDAE と LAAD を除くと，“full board” と “half board” は，4つの「イギリス英語」系辞書では独立見出し語であり，「イギリス英語」の表記がある。

すべての辞書の “shall” の記述から，(1) “Shall I (we)…?” 構文，(2)形式的な（formal）場合や法律文書等などの用例を除くと，この語彙の出現頻度は低いことがうかがえる。なお，「米語」では shall の現れる頻度が特に低いことを明確に記述しているのは，CADE と OALD6 のみである。

独立見出し語と追い込み見出し語……“squeaky-clean” または “squeaky clean” は，3万語グループでは独立見出し語である。2万語グループの CDAE，CLD と 4万語レベルの LAAD では，“squeaky” の語義の追い込み見出し語となっている。なお，2万語グループの中で最も独立見出し語数の少ない OWP2 では，“squeaky(-)clean” の項はない。ちなみに，この辞書では，“squeaky” 自体が “squeak” の追い込み見出しである。

多義語の語義の数……独立見出し語 “point”（動詞）と “point”（名詞）の語義区分の数を，3万語グループと2万語グループとで比較した場合，前者がより多くの語義を記載している。ただし，CLD（2万語グループ）の “point”（名詞）については，OALD6（3万語グループ）の語義区分の数と同じであった。なお，すべての辞書の中でもっとも多くの語義区分を立てているのは LAAD で，名詞が7区分，動詞が32区分であった。

2．2　Slang と Fixed Expression

EFL 辞書は学習者を主眼に編纂されるため，必ずしも多くのスラング (slang) や決まった言い回し（fixed expression）を記載しているとは限らない。次の英文は，オンライン・ジャーナル AnchorDesk の記事からの引用である。

MONOPOLY MOVE: WHY MICROSOFT IS *SCREWING* ITS BEST CUSTOMERS

by David Coursey

ABUSE OF POWER: Microsoft needs corporations to upgrade their software. But

is that an excuse to run roughshod over its best customers? If this was just about money, I think I'd call for a breakup, but there's more to the story. Here's how (and why) customers are *getting the short end of the stick*.... (*ZDNet AnchorDesk* May 23, 2001)

この記事見出しの "screwing" の語義は，6 つの EFL 辞書中 **CLD** と **OWP2** には記述がなかった。(**表 3** 参照。)

表 3．Screw

	COBUILD3	CDAE	CLD	LAAD	OALD6	OWP2
screw v	+	+		+	+	

COBUILD3　**9** If someone says they have been screwed, they mean that someone else has cheated them, especially by getting money from them dishonestly.
CDAE　**verb** [**T**] **SLANG** to cheat or deceive (someone)
LAAD　**4 SCREW Sb** also **SCREW sb over** SLANG to cheat someone or treat them in a dishonest or unfair way
OALD6　**5** [**VN**] ～**sb** (**for sth**) (slang) to cheat sb, especially by making them pay too much money for sth

"get the short end of the stick" を記載していたのは，**LAAD** と **OALD6** のみであった。ただし，**LAAD** と **OALD6** に併記されている "draw the short straw" について調べてみると，**LAAD** と **OALD6** 以外に，**COBUILD3** にも記載があった。(**表 4** 参照。)

表 4．Stick or Straw

	COBUILD3	CDAE	CLD	LAAD	OALD6	OWP2
get ... stick				+	+	
draw ... straw	+			+	+	

LAAD　*draw/get the short straw* also *get the short end of the stick*
OALD6　(AmE) *get the short end of the stick* = (BrE) *draw the short straw*

二つの言い回しを **OALD6** の記述に従い，"get the short end of the stick"「米語法」，"draw the short straw"「イギリス英語の語法」と表記できるだろうか。ちなみに，「米語」系辞書 LAAD では，両者に区別を付けていない。なお，**CADE** や **CLD** の出版元であるケンブリッジ大学出版 (Cambridge University Press 以下，CUP) のイディオム辞書 **CIDI** では，"get the short end of the stick"「米語・豪語」，"draw the short straw"「インフォーマル」のラベル表示がなされている。

2．3　語彙の出現頻度の記述

2．3．1　COBUILD の "Frequency Band" と LDOCE3 の S・W 表示

COBUILD2 では，特に出現頻度の高い語彙を選び，5 段階の "Frequency Band" として表示した。この 5 段階 "Frequency Band" 表示は，**COBUILD3** でもほぼそのまま踏襲されている。

見出し語に出現頻度情報を付加する試みは，**LAAD** にも見られる。**LAAD** とその元となった **LDOCE3** では，最も出現頻度の高い3000語を選び，Spoken と Written (以下，「S・W 表示」と略) それぞれについて，頻度を 3 段階で表示している。

Kilgarriff（1996）では，彼自身が関与した **LDOCE3** の「S・W 表示」の詳細を記述するとともに，**COBUILD2** の“Frequency　Band”5 段階表示方式との比較をおこなっている。彼は **COBUILD2** の“Frequency Band”よりも「S・W 表示」に，より高い言語学的な妥当性があることを主張する一方で，**COBUILD2** の “Frequency Band” の 3 ～ 5 段階の語彙（最も出現頻度の高い3400語）と **LDOCE3** の3000語との間に強い相関関係があることを実証している。

2．3．2　Kilgarriff の BNC 語彙リストの活用法

日本で英語の基本語彙が問題にされる場合，しばしば利用される「JACET 基本語彙」(JACET Word List) は，現在，改訂作業中である。この改訂プロジェクトでは，Adam Kilgarriff によって BNC コーパスデータから抽出された，最も出現頻度の高い英語彙（Lemma）5,518語（以下，BNC 語彙リストと略）を作業のベースとしている。このプロジェクトでは，独自に各種英文データ（高校英語検定教科書・大学センター試験「英語」・英語の検定試験問題・英米の新聞，百科事典，科学雑誌・映画スクリプト・英米放送局の番組スクリプト・Project Gutenberg の文学作品など）を電子ファイル化し，その中の語彙を出現頻度順に出力してリスト化した。（以下，JACET リスト）そして，この出力リストを BNC 語彙リストと比較している。両リストを比較すると，BNC 語彙リストは92％～96％の高い率で，JACET リストの語彙をカバーしていた。（ただし，BNC 語彙リスト，JACET リストとともに固有名詞は対象外。）[4] つまり，日本の英語学習者がしばしば見たり聞いたりする上記のような英文テキストの語彙の多くは，固有名詞を除くと，BNC 語彙リストの語彙と一致するということである。

本稿で比較検討している EFL 辞書は，BNC あるいはその他のコーパスデータを利用して出現頻度の高い語彙を割り出し見出し語としている。各 EFL 辞書の見出し語の出現頻度リストを出して相互に比較すると，辞書ごとに頻度順に多少の違いが生じることは予想できる。しかし，各 EFL 辞書の見出し語は，利用したコーパスデータの中で出現頻度の高いほうから2.5万～ 4 万語レベルまでの語彙を採録していることを考慮すると，各 EFL 辞書が BNC 語彙リストの語彙を取りこぼしているとは考えられない。BNC 語彙リストに含まれる約5,600語と英語学習の目的に応じて必要とされる追加語彙に焦点を絞り，その語彙や語法，コロケーション・パターンなどを 6 冊の EFL から学ぶことは，実際の英語使用で多用される英語彙の用法をカバーすることになり，大変効果的な英語力養成の方法となるであろう。

2．4　コーパスデータにもとづいた辞書記述

コーパスデータを解析すると，個々の語彙，語彙の語義，コロケーション・パターンなどは均等にコーパス中に分布していないことがわかる。出現頻度が特に顕著な語彙，その中の特定の語義やコロケーションは，ほかのものよりも何倍も多く出現する傾向がある。[5] 今日，大規模なコーパスデータが利用できるようになって，このような頻度差にもとづく英語の語義や用法の記述，そして用例の選択が可能となった。

表 2（2．1）の “e(-)mail” でも見たように，約 5 年前に出版された EFL 辞書では「不可算名詞」だったものが，最新の EFL 辞書では「不可算名詞」（“U”）とともに「可算名詞」（“C”）と表記されている。十分なデータがそろわなかったり，用法に大きな揺れが認めらたりする語彙は，一時的に「規範的な」記述が先行しても，その後，関連のコーパスデータが充実して，頻度差に裏付けられた主要な用法が明らかになると，「記述的な」用法は改められる。[6] “e(-)mail” は，このような例のひとつであろう。

コーパスデータの拡大・充実やその解析精度の高度化により，最新の EFL 辞書の記述はどの辞

書を取っても信頼度が高まっている。しかし，コロケーションや構文の表記，その他の文法情報や語彙情報の体系的な記述という観点から6冊のEFL辞書を見ると，**COBUILD3**，**OALD6**，**LAAD**の記述が特に充実している。

3．インターネット・リソースの利用

今日，電子版辞書とともにオンライン版英語辞書や関連するウェッブサイトなどのインターネット・リソースが広く利用できるようになってきた。(インターネット・リソースの例については，**Appendix III** を参照) 英語彙の語法や用例を調べる場合にも，紙媒体の英語辞書とともにこのようなインターネット・リソースを利用することで，実践的に未知の語法や用例を調べることができる。

次の英文は，オンライン版New York Timesの国際政治欄に掲載された記事の見出しと記事の一部である。

It's Time to *Pass the Torch*, Powell Tells Zimbabwe's President

by Marc Lacey

JOHANNESBURG, South Africa, May 25 - Secretary of State Colin L. Powell today called on President Robert Mugabe of Zimbabwe to "submit to the law and the will of the people" in a fair and free presidential election next year instead of clinging to power...

(*The New York Times online edition* May 26, 2001)

"torch" を字義通りに解釈すると，この国際欄に載ったニューヨーク・タイムズの記事は意味不明になる。

3．1　辞書ウェッブサイト

CUPウェッブページのオンライン辞書で "pass the torch" を検索してみると，**CADE**（オンライン版）に次の記述がある。

(fig.) The torch is the basic responsibilities and characteristics of a group, organization, or society, esp. when someone new takes control: After he died, *the torch was passed to his wife,* who now runs the organization.

なお，**CLD**，**COBUILD6**，**OALD6**，**OWP2** には，この表現に関する記載はない。

3．2　コンピュータ・コーパス

"pass the torch" が固定した言い回しかどうかを調べるために，手持ちのソフトBNC Sampler on CD-ROM，インターネット上のCOBUILD Concordance Demo (http://titania.cobuild.collins.co.uk/cgi-bin/democonc) とに，"torch" と入力して検索してみた結果は次の通りであった。

表5．Torchのコロケーション

	COBUILD	BNC
carry a torch	2	2
carry the torch	1	0
pass the torch	1	0

該当する例は，BNC Sampler（200万語データベース）ではなし，COBUILD デモ版（現代英語5,600万語のデータベース，出力は40例に制限）では１例であった。

なお，出力データからすると，“torch” は “pass” よりも “carry” と強いコロケーション関係にあることが推定できる。（**表 5** 参照）

3．3　サーチエンジン検索

インターネット上でサーチエンジン(http://www.yahoo.com ただし，advanced search 画面のオプション an exact phrase match を選択）を使い，“pass the torch” を探してみると該当するサイトは56,900件（2001年10月１日現在）であった。以下は，検索結果からの一部引用である。

> *“PASS THE TORCH* WEBRING
> Welcome to “*PASS THE TORCH* WEB RING”... sites, that would BE WONDERFUL. 7.
> If your site qualifies, then WELCOME. AND *PASS* ON *THE TORCH* OF LOVE,....
> http://www.lizmercy.com/torchring.html

この検索結果からみると，“pass the torch”はかなり頻度の高いコロケーションであることがわかる。

3．4　引用句辞典

CDAE では「比喩的」とあることから，引用句辞典（インターネット・リソース）で調べてみると，John F. Kennedy の大統領就任演（1961年１月20日）の中に，“the torch has been passed” があることがわかった。

> Let the word go forth from this time and place, to friend and foe alike, that *the torch has been passed* to a new generation of Americans-born in this century, tempered by war, disciplined by a hard and bitter peace, proud of our ancient heritage and unwilling to witness or permit the slow undoing of those human rights to which this nation has always been committed and to which we are committed today at home and around the world.
> (Simpson. (1988) *Simpson's contemporary quotations* (http://www.bartleby.com))

Kennedy 就任演説の中の “pass the torch” は，ニューヨーク・タイムズ紙の見出しの用例とはほぼ同義で使われていることがわかる。ちなみに，**CDAE** と同じく「米語」系辞書の **LAAD** には，次のような記述がある。

> **pass**[1] V19 ***pass the torch*** (***to sb***) if someone passes the torch to someone else, they give their position or work to them.

「米語」系辞書と上記のインターネット・リサーチの結果から，この表現はアメリカではかなり定着した言い回しでることがうかがえる。

４．インターネット時代の英語と EFL 辞書

英語のウェッブサイト，英語による個人やメーリングリストからの電子メールやオンライン・ジャーナルなど，インターネット上ではさまざまな英語情報が全世界規模で飛び交っている。Lan (2000) は，現在の英文電子メールと「標準英語」(standard English) の関わりを論じている。ENL グループに属する若い人の電子メールは，「書き言葉」よりも「話し言葉」に近い存在であり，既存の文法規則に抗する傾向が見られる。一方，非母語として英語を使う人々の電子メールは，おおむね「書き言葉」の文法規則を遵守している。この論文では，電子メールのスタイルが「標準英語」に対する大きな驚異となることはないと結論している。

Graddle (1997) や Crystal (1997) によると，英語を第二言語 (English as a second language，以下 ESL) や外国語 (EFL) として使う人々の数は，英語を母語として使う (English as a native language，以下 ENL) 人々の数を上回ろうとしており，今後，英語によるグローバル・コミュニケーションの主体となるのは，ENL グループではなくて ESL と EFL グループであると指摘している。[7] しかし，Crystal (1997) によると，"New Englishes" を使う ESL と EFL グループの人々は，仲間内では独自な英語を使っても，グローバル・コミュニケーションの場では，必要に応じて「標準的な書き言葉」(written standard English) や「世界で通用する標準的な話し言葉」(world standard spoken English) を使い分ける傾向がある。[8]

現在の EFL 辞書は，このような英語の現状や未来に十分対応したものであろうか。すでに見たように，現代英語の語義や用法については，６冊の EFL 辞書の記述は充実している。しかし，英語は常に変化を続けており，現状のままでは今後の言語現象を網羅できない。継続的に BNC のような大規模な英文コンピュータ・コーパスを充実させていくことは，次世代の EFL 辞書編纂のためにも重要である。

５．終わりにかえて

最新のＥＦＬ辞書は，従来の知見とともにＢＮＣのような大規模なコーパスデータの解析結果を活用して編纂されていることを見てきた。また，意味不明な英語の語彙やその用法，あるいは字義通りに解釈できない語句の意味を調べる際に，各種ＥＦＬ辞書とともにインターネット・リソースを利用することの有効性を，実例を踏まえて検証してきた。

今後は，英語学習者の英語力向上に寄与する英語コンピュータ・コーパスの構築法やインターネット・リソースの活用法についてさらに検討を進めるとともに，インターネット時代の新しい実践的な英語学習法についても研究を続けたい。

注

1) The most significant developments in lexicology in the past two decades have involved more extensive corpora of spoken and written language and the creation of sophisticated computer-based access tools to such corpora. (Carter (1998: 167))

2) Nesi (2000) では，**LDOCE3, OALD5, COBUILD2** の特徴をそれぞれの前の版と比較して次のようなコメントを書いている。

All the examples in LDOCE3 are new, and most (but not all) are very different from the examples in LDOCE2. The illustrative sentences in the earlier edition which seemed to mislead my experimental subjects most ... have been replaced by less idiosyncratic examples. (p.123)

The fifth edition of the OALD is different in format from the fourth edition ... and

although OALD5 contains many new examples most of the fourth edition examples are also repeated in the fifth edition. (p.127)

COBUILD2 retains the defining style pioneered in the first edition, and the reliance on corpus data. Of the six editions examined, it has the longest entries for the target words, and the greatest number of examples. Whereas examples in LDOCE3 and OALD5 were created by lexicographers on the basis of corpus research, all the examples in COBUILD2 come directly from the Bank of English, with only occasional minor modifications. (p.131)

3）ページあたりの「見出し語数」(α) は，25ページごとにA項初めからZ項最後までの各ページを実際に数え，その総和 (β) を出し，次に実際に数えた各辞書のページの総数 (γ) で割って得られる値，すなわち $\alpha=\beta\div\gamma$ とする。また，表1の「推定総見出し語数」(δ) は，「見出し語数」(α) に辞書の総ページ数 (ε) を掛けて得られた値 $\delta=\alpha\times\varepsilon$ とする。よって，「見出し語数」(δ) は，$\beta\div\gamma\times\varepsilon$ によって求められる。

4）JACET 基礎語彙の改訂作業は，本著者もメンバーとなって現在も進行中。詳細は http://www01.tcp-ip.or.jp/~shin/jProj/list/data.html を参照。

5）Many words have more than one meaning, sense, or usage, and these occur in very uneven distribution. ... just as some words are much more common than others, some senses of one word are much more common than other senses of the same word ... many times more common. (Sinclair (1991: 101-2))

6）「規範主義者」の立場から，まだ確定していない用法記述について Garner (2001: 8) は次のように書いている。

We (prescriptivists) can't expect perfection, and we must bow to universal usage. But when an expression is in transition—when only part of the population has adopted a new usage that seems genuinely undesirable—prescriptivists should be allowed, within reason, to stigmatize it. (Garner (2001: 8)) (注括弧　著者)

7）So, if current population and learning trends continue, this balance will soon change. Within ten years, there will certainly be more L2 speakers than L1 speakers. Within fifty years, there could be up to 50 per cent more. By that time, the only possible concept of ownership will be a global one. (Crystal (1997: p.130))

8）Those who are literate have learned a third variety, that of written standard English which (apart from a few minor differences, such as British vs. American spelling) currently unites the English-speaking world. In a future where there were many national Englishes, little would change. People would still have their dialects for use within their own country, but when the need came to communicate with people from other countries they would slip into World Standard Spoken English. (Crystal (1997: 137))

Appendix I.
EFL 辞書の略称

CDAE　*Cambridge dictionary of American English.* CUP

CIDI　*Cambridge international dictionary of idioms.* CUP

CLD　*Cambridge learner's dictionary.* CUP

COBUILD　*Collins COBUILD English dictionary for advanced learners.*

Harper Collins Publishers

LAAD *Longman advanced American dictionary*. Pearson Education Ltd.

LDOCE *Longman dictionary of contemporary English*. Addison Wesley Longman Ltd.

OALD *Oxford advanced learner's dictionary of current English*. OUP

OWP *Oxford wordpower: Dictionary for learners of English* 2000. OUP

Appendix II.
EFL 辞書公式ウェッブページ
（５月８日現在）

COBUILD3 http://titania.cobuild.collins.co.uk/catalogue/cob3flash.html

CDAE http://www.cup.org/esl/cdae/dict_features.htm

CLD http://uk.cambridge.org/elt/cld/book/intro.htm

OALD6 http://www1.oup.co.uk/elt/oald/

OWP http://www.oup.com/elt/global/catalogue/dictionaries/oxfordwordpowerdict/

Appendix III.
インターネット・リソース
（５月８日現在）

Ａ．英語辞書

１．一般用

The American Heritage dictionary of the English language (4th ed.)
http://www.bartleby.com/[1)]

Microsoft Encarta world English dictionary
http://encarta.msn.com/reference/

Merriam-Webster collegiate dictionary & thesaurus
http://www.m-w.com/

２．英語学習者用

CUP　http://dictionary.cambridge.org/

Cambridge international dictionary of English

Cambridge learner's dictionary

Cambridge dictionary of American English

Cambridge international dictionary of idioms

Cambridge international dictionary of phrasal verbs

Newbury House　http://nhd.heinle.com/

The Newbury House dictionaries

OUP　http://www1.oup.co.uk/elt/oald/

Oxford advanced learner's dictionary 6th ed.

３．スラング・口語

English slang and colloquialisms used in the United Kingdom
http://www.peevish.co.uk/slang/index.htm

４．ライミング辞典

Search and explore great works on RhymeZone
http://www.rhymezone.com/

B．英語語彙関連サイト

1．語義，同義語・類語，反意語等

WordNet 1.6: A lexical database for the English language
http://www.cogsci.princeton.edu/~wn/

2．語彙頻度表

アルク標準語彙水準 (Standard Vocabulary List 12,000)
http://www.alc.co.jp/goi/index.html

BNC database and word frequency lists (Adam Kilgarriff による)
http://www.itri.bton.ac.uk/~Adam.Kilgarriff/bnc-readme.html

3．コーパス

Brown Corpus http://www.ldc.upenn.edu/cgi-bin/ldc/agree?text

COBUILD Direct Corpus Sampler
http://titania.cobuild.collins.co.uk/form.html # democonc

British National Corpus
http://info.ox.ac.uk/bnc/

BNC Sampler (購入情報)
http://info.ox.ac.uk/bnc/getting/sampler.html

1）**AHD4** 以外にこのウェッブサイトで利用可能なものは次の通り：**引用句・語源** Bartlett, J. (1919) *Familiar quotation* (10th ed)/Brewer, E. C. (1898) *Dictionary of phrase and fable*// **百科事典** *Columbia encyclopedia* (6th ed.) (2001)// **セソーラス** *Roget's II*: The new thesaurus (3rd ed.) (1995)/ *Roget's international thesaurus of English words and phrases* (1922)// **語法・用法** *American heritage book of English usage* (1996)/ Strunk, W, Jr. (1918). *The elements of style)*// **聖書** The bible (1999) *King James version*

引用文献

Carter, R. (1998). *Vocabulary: Applied linguistic perspectives* (2nd ed). London: Routledge.

Coursey, D. (2001). "Monopoly move: Why Microsoft is screwing its best customers" in *ZDNet AnchorDesk* (Wednesday May 23, 2001) http://cgi.zdnet.com/slink?/adeskb/Adt0523/2764166:2042086 (2001年5月23日現在)

Crystal, D. (1997). *English as a global language*. Cambridge: CUP.

Garner, B. A. (2001). Calling for a truce in the descriptivist-prescriptivist wars. *English Today* 66, Vol.17, No.2 (April 2001). pp.5-9.

Graddle, D. (1996). The future of English. (Online PDF File)
http://www.britcoun.org/english/pdf/future.pdf (2001年5月8日現在)

Kilgarriff, A. (1996). ITRI-96-10 Putting frequencies in the dictionary. *Information Technology Research Institute Technical Report Series*. (http://www.itri.bton.ac.uk/pubindex.html) (2001年5月8日現在)

Lacey, M. (2001). It's time to pass the torch, Powell tells Zimbabwe's President *The New*

York Times Online Edition. May 26, 2001. http://www.nytimes.com/2001/05/26/world/26POWE.html (2001年５月27日現在)

Lan, L. (2000). Email: A challenge to standard English? *English Today* 64, Vol.16, No.4, (October 2000). pp.23-29, & p.55

McArthur, T. (2001). Error, editing, and world standard English. *English Today* 65, Vol.17, No.1. (January 2001). pp.3-8

Nesi, H. (2000). *The use and abuse of EFL dictionaries: How learners of English as a foreign language read and interpret dictionary entries*. Tubingen: Max Niemeyer Verlag.

Sinclair, J. (1991). *Corpus, concordance, collocation*. Oxford: OUP.